

## 十郷用水

十郷用水は、九頭竜川中流の鳴鹿大堰から右岸の坂井平野に取水する用水のうち、もっとも古く中心的な用水で、この絵図（二～三頁）はその江筋と各組合村をダイナミックに示している。

図の上から左の縁に竹田川、右下から下縁に兵庫川を配し、その間まれた部分中央に、右から左に用水の本流が描かれている。また、用水に沿って北

陸道、図の右上すみには丸岡城が描かれ、一見模式的な図に見えるが、左のみるところ、かなり正確に描かれた図であることに驚かされる。

この地形図が示す土地利用は、水田の広がりが一様でなく、とくに手のひらのように分岐していく部分を含む用水の幹線が、微高地（畠地）を利用し

て導かれていることをよく示している。この微高地は、かつて九頭竜川の流れが、扇状地帯に土砂を堆積させた跡と考えられ、北陸道もまたこの微高地を利用していることをも考え合わせると、厳しい自然と共に手のひらの先人の知恵をうかがい知ることができる。

